

小柴昌俊先生のノーベル物理学賞受賞を祝して

西嶋 恭司

ノーベル物理学賞受賞おめでとうございます。小柴昌俊先生の受賞の報に接し、やっと来るべきときが来たか、という気持ちです。私が小柴先生の助手に迎えられて以来、毎年この時期になると、新聞社からの電話でノーベル賞の発表が近いことを知らされるのが恒例ようになっていました。時には、出張先にまで記者の方が現れることがありました。その都度「君にまで迷惑をかけてすまないね」とおっしゃられる先生の、複雑なお気持ちは如何様のものであったのでしょうか。それだけに、今回の受賞は、先生ご自身も感無量ではないでしょうか。先生の下で、先生とともに仕事をさせていただいたひとりとして、本当に嬉しく思うとともに、心よりお祝い申し上げます。

先生は、物理に関しては非常に厳しい方でした。実験に関しては決して安易な妥協を許さなかったし、結果についてもいい加減な解釈を絶対に許しませんでした。また、実験は「お金」ではなく「工夫」だ、と口をすっぱくして説かれました。ある実験で、安全ファクタを見込んでためのワイヤを購入しようとしたら、「高い！」、と一括され、細いワイヤに変更させられたことがあります。ところが実験をはじめるとすぐ切れてしまった、という失敗談もありますが、いつもはするどい直感を發揮され、それが意外と（と言っては失礼ですが）的を得ていて驚かされることがしばしばありました。このような小柴先生が強力なリーダーシップを發揮されたのがカミオカンデです。先生の厳しさと工夫の中から生まれたその成果が、今回のノーベル賞受賞につながっているのも納得のゆくところ です。

やや近寄りがたい存在感のある小柴先生ですが、時折やさしい普通のおじいさんの顔を覗かせてくれます。知り合いの女性ピアニストの話になると途端に顔がほころび話が弾みます。さらにお孫さ



超新星 1987A
(アングロ・オーストラリアン天文台撮影)

んの話になるともうニコニコです。先生は、夜寝るのが早いことでも知られています。文化勲章授章の、ある内輪のお祝いの席でのことです。店の都合で始まりの時間がいつもより遅いのが気になっていましたが、案の定、先生は前菜を召し上がったところで、「じゃ、私はこれで。そろそろ寝る時間ですから。」と席を立とうとされ、慌ててメインディッシュまでお引止めしたこともあります。

私自身は、最近高エネルギー宇宙物理学の方に仕事の重心を移しつつありますが、先生が開かれたニュートリノの窓から得られる情報を加味して研究を進展できる日が近いことを夢見て、筆を置きたいと思ひます。あらためておめでとうございます。

(東海大学理学部物理学科)